

No. 37

1976.
10. 10

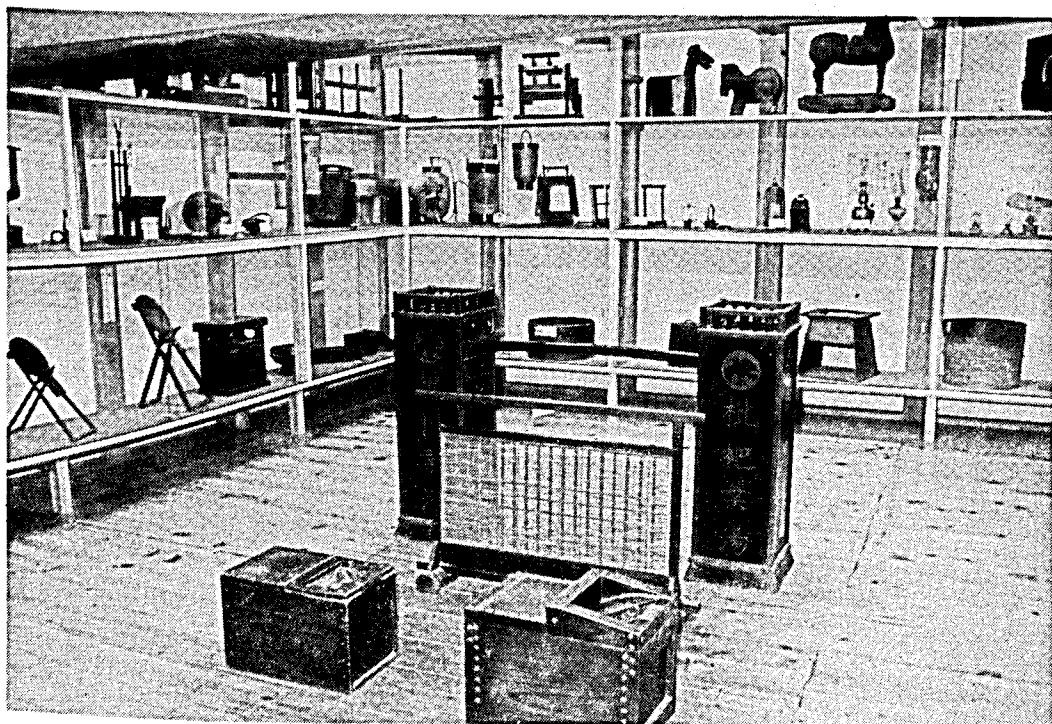
岐阜の博物館

〒488 羽島郡川島町
エーザイ工園
編集兼発行 内藤記念くすり資料館内
岐阜県博物館協会
TEL (058689) 3111
内線 540
振替 名古屋 70106

特集

“岐阜県博物館協会の歩み”

～全国博物館大会高山大会開催を記念して～



写真／高山市郷土館 民俗資料展示室

(本文 26 ページ参照)

第24回全国博物館大会開催を記念して

岐阜県博物館協会々長・岐阜市長

上 松 陽 助



このたび、高山市で全国博物館大会が開催されることになりましたが、ご同慶にたえない次第です。私が1971年、岐阜県博物館協会の会長になった当時の県下の博物館施設は60館ほどであったのが、今日では100館以上になっています。

しかし、いずれの施設も大なり小なり運営上の困難点や問題点をかかえており、これは、全国の博物館についても言えることだと思います。

かつて、ヨーロッパの旅をした折、フランスのルーブル美術館に立ち寄ったことがあります。そこで気づいたことは、— おじいさんが孫づれで、16世紀以来の著名な作家の作品の前に立って、いろいろと孫に説明している姿— でした。これに似た情景をフランスでは幾組か見ましたが、日本ではめずらしいことです。

このことで、フランス国民の文化性がいかに高いか。また、これこそ文化伝承の本当の姿ぞと感銘しました。先人の文化遺産をしっかりと受けつぎ、そして新しい文化を創造していくことこそ生涯教育の要だと信じます。フランスが芸術のメッカとまで言われている所似をしかと見届けた次第です。

このように、過去・現在そして未来の文化を雲の上の文化、一部プロの文化にとどめることなく、広くアマチュアの国民全体の文化にしていくことこそ、今日的で大きな課題だと信じます。

この大会において、岐阜県の博物館や地域性を素材にし、おおいに意見交換・交流を行って、これからの博物館の歩むべき方向を浮き彫りにして文化国家日本の建設の糧を生みだしていただきたいと思います。

この大会の成功を祈るとともに、抱負の一端をのべて挨拶といたします。

目 次

第24回 全国博物館大会開催を記念して	岐阜県博物館協会会長	上松 陽 助	2
高山大会が開かれるまで	岐阜県博物館協会理事長	長 倉 三 朗	4
第24回 全国博物館大会開催に際して	日本博物館協会専務理事	毛 利 正 夫	5
岐阜県博物館協会設立の頃を回顧して	岐阜県博物館協会副会長	郷 浩	6
機関紙 定期刊行・継続をこそと念じつつ	岐阜県博物館学芸員	小野木 三郎	7
博物館学セミナーの持つ歴史的展開 その学術的意義と研修	岐阜県博物館協会副理事長	吉 田 幸 平	9
岐阜県博物館協会に望む	岐阜県博物館協会監事	藤 田 松 太 郎	12
ポスター「博物館へどうぞ」と 「岐阜県の博物館要覧」の誕生	岐阜県博物館協会事務局員	古 田 恵 子	18
学芸技術員認定講習会開かる	岐阜県博物館協会事務局長	青 木 允 夫	14
岐阜県博物館協会に望む	岐阜県博物館協会監事	石 川 良 宣	15
会計係として事業運営に参加して	岐阜県博物館協会理事	上 村 修	16
岐阜県博物館設立への声援の歴史	岐阜県博物館協会広報委員	田 中 淑 紀	17
外から見た岐阜県博物館協会 今後に望むもの	日本モンキーセンター学芸部長	広 瀬 鎮	18
機関紙「岐阜の博物館」№1～36総目次			19
図書紹介「下有知の民話」,「奥美濃よもやま話」			25
館・園紹介 №32 高山市郷土館			26
岐阜県博物館協会主要事業年表			27
図書紹介「歩いて眺めて考えて」,「父と子の博物館」			30
県内 ニ ュ ー ス			31
編集後記			32

全国博物館大会

高山大会が開かれるまで

岐阜県博物館協会理事長・飛驒の里名誉村長 長倉三朗

全国博物館大会が高山市で開催されることになった経緯を書いてくれと事務局からの依頼がありましたので、経過のみを報告します。

昨年9月岐阜県博物館協会が「学芸技術員」の資格付与講習会を計画し、その講習会を27日から28日の2日間、内藤記念くすり資料館を会場にして開催した時のことです。たまたま控室で当協会副会長の郷浩さん、日本博物館協会の専務理事、毛利正夫さんと私がい、世間話をしているうち、次期全国博物館大会に話が及び会場の話が出たのです。

そのときの毛利さんによれば、51年度会場が決定されていないこと、それは秋田、青森の両県にお願いして見たが、引受けて戴けず困っているとのことでした。これを聞いた郷さんから、それでは高山市で引受けてはどうかと発言があったのです。そのとき私は、今迄大会を開催しているのは当った県と、県庁の所在地であり、人口6万の小都市で引受けるには荷が勝過ぎるということと、もう一つは高山市で開催するとすれば主体となるのは民俗村であるが、民俗村は博物館の系統である社会教育課に属さず、観光課に属しており、その点でも運営上困ることが起るのではないかと返事をしたのです。これに対し郷さんは、高山市は観光都市でもあって多くの人々が興味を持って居り、高山市として決してマイナスにはならないと思ひ、また毛利さんから所属が観光課であっても大会には差支えないというお言葉でした。

私は地元の負担金は幾ら必要かと問いました所、毛利さんから60万円ということでした。私はこれは自分だけで決められるべき問題ではないので、岐阜県博物館協会の副会長でもある

平田吉郎高山市長に報告してから、市長の意向をお伝えするという約束をしたのです。なお、毛利さんから今年の大会には次期開催地を発表しなければならないので、早急に返事が聞きたいとのことでした。

私は講習会のあと東京に廻り用を済まして、2日後にしか帰らないため、民俗村から講習を受けるために来ていた、藤田君に次期大会の会場の件を伝え、民俗村へ帰ったら、山本民俗村管理所長にその旨を報告し検討してもらおうよう頼んでおきました。私が帰ったときには、山本所長と当時の小島観光課長と市長との話し合いの結果、大会場を引受けるということに決定していました。従って私は帰った早々、日博協会へ引受けの電話を入れたのです。

第23回全国大会は10月27日から東京都で開催され、それには次期開催地から議長を出せという通知がありました。そんなわけで県への報告も遅れ、また岐阜県博物館協会は51年度東海地区博物館協議会会場の受持で6月には岐阜で開催することになっているので、大会の準備は6月以降ということに了解が成立しました。なお、才23回大会には岐阜県からなるべく多く出席して大会の様子を見てくるようにと岐阜県博物館協会から県内各博物館に要請しました。殊に多治見陶磁器陳列館長の古川庄作さんには御厄介になりました。

民俗村から山本所長と当時の野尻係長が出席、私は一日遅れて参加しました。初日は山本所長が議長席に坐ったのですが、奥様が急逝されて急抛帰られたため最終日は私が代って議長席に坐り、次期開催を約束したわけです。

今年の才24回大会は10月18日より20

日まで高山市の体育館，市民会館，グリーンホテルを会場にして開催することになり，岐阜県庁，岐阜県博物館協会の役員諸氏，高山市各施設の方々，飛驒地域内にある各施設にも御厄介

を掛けることになりました。小さな都市が開催地となり不十分ではあると思いますが恥しくない大会にしたいと念じて居ります。以上皆様の御協力をお願い申し上げます。

第24回全国博物館大会開催に際して

日本博物館協会専務理事 毛利正夫

この度，第24回全国博物館大会が岐阜県で開催されることになりました。これは県下関係者の皆さんの，博物館事業に対する深い関心と情熱によるものと，関係者の一人として深甚の敬意を表します。

◇ 大会テーマの意図 ◇

さて，遠い歴史と長い伝統を持つ岐阜県，取り分け大会開催地の高山は，地形の悪条件と北国を凌ぐ厳しい寒さにもかかわらず，孜々営々と努力を重ねて，立派な飛驒文化を築き上げました。この先人の努力と英知，資源と環境の相互のかかわり合いは教育に携わる者にとっては，深い関心事であります。特に博物館事業に関係する我々はこの素晴らしい事柄を，地域住民は勿論，この地を訪れる多くの人々にも是非共正確に，十分に，でき得るならば感動して貰える程に伝える務めがあると思います。そのような考えで今回の大会テーマとして「伝統文化に関する博物館の諸問題について」を選びました。

◇ 博物館から見た岐阜県の特徴 ◇

岐阜県は経済，産業の基盤が森林資源によって思われます。だから農耕文化的，即ち，春夏秋冬の四季を周期とする短いサイクルというより，数十年を一廻りとする長いサイクルの生活形態なので，文化的にも地味ではあるが雄大，遅速でも確実，建設的な気風を育てまし

た。この風土から，人文に自然に博物館資料の極めて恵まれた土地柄となったのであります。歴史の長さ，文化の巾と奥行が県下に群小の博物館を産んだのでしょう。規模は小さいが数は非常に多く，そして活潑に活動していることが，極めて特徴的であります。

さてここで視点を変えて，日本の博物館今後の趨勢を考えて見ますと，高度成長時代の新設ブームは一応鎮まり，モニュメント式の新館建設は緩退し，世論や住民の要望に応えなければならない博物館になって行くと思われれます。その時に重要なのは専門小博物館ではないでしょうか。小さな然し内容の充実した博物館が全国各地に限なく建設されていく。そんなことが我が国情に適し，また国力にも相応しいと思っております。その試金石の役割を今，岐阜県の博物館は荷なって居られると思っております。

◇ 今後に望むもの ◇

専門小博物館が健全に発展するためには，小規模博物館の持つ欠陥を相補うことが肝要で，そのために，県下各博物館の相互連繋が是非必要であります。利用者から見れば，丁度大空の星のように各地に散らばっているが，何処の博物館を訪れても組織的な秩序が感じられるようになることであります。そのために，

○大規模博物館で資料の収集，展示等に関する調査・研究を推進し，その成果を県下各

博物館が十分利用できるシステムの設定。

○大型収蔵施設を建設し、共同利用できるシステムの設定。

等が組織的に運営されることと、文化の特徴を継承していくためにも、

○地場産業に関する博物館の充実。

○本格的且つ格調の高い観光博物館の開発。

○野外自然観察博物館の開発。

○過疎地の建築物群を大規模に利用し、民族歴史の体験博物館の開発。

等、博物館内容の充実を図ると共に、小博物館の欠陥ともなりがちな、職員不足と研修研鑽の場を、共同運営、共同研修により学芸職員の質の向上と視野拡大等々に期待し、地方公共団体はもとより、国からの行政的支援も十分に引出して、この新事業の成功を見たいものであります。我が国では民間の寄附は欧米に較べて余りにも貧困であります。本当の社会事業の推進の為、岐阜県でその先鞭と素地を造って頂きたいと切望するものです。

岐阜県博物館協会設立の頃を回顧して

岐阜県博物館協会 副会長

岐阜城・岐阜城資料館々長

郷 浩

岐阜県博物館協会設立準備会発会式が開催されたのは、昭和37年6月の頃であった。

当時名和昆虫博物館の名和正男氏と博物館活動について雑談中、神奈川県では県内博物館を網羅して協会を組織し活動しているとの話が出た。そこで、岐阜県としても協会を作り相互の親睦と研究を図るべきではあるまいかという事になり、早速関係の各館園に呼びかけた。

その主旨に賛同し、設立準備会発会式に出席されたのは、次の方々であった。

飛騨郷土館（下呂町）	伊藤 祐教
奥美濃郷土館（八幡町）	武藤 隆一
大垣城（大垣市）	大橋 真澄
名和昆虫博物館（岐阜市）	名和 正男
岐阜城（岐阜市）	郷 浩
岐阜市児童科学館（岐阜市）	竹村 信弘
浅見化石館（岐阜市）	浅見 薫
濃飛甲冑研究所（岐阜市）	吉田 幸平
菊花石館（岐阜市）	白木 孝一

出席者全員の賛成を得て、ここに協会設立が

決定されたのである。

その後の2～3年は、上記の方々や日本博物館協会総会に参加したり、各界に働きかけたりして、設立のための準備が進められた。

そして、協会事業がいよいよ軌道に乗り始めたのは、第1回総会が開かれ、規約を決定し役員を選出した昭和41年頃からであった。

役員については、会長候補として岐阜県事松野幸泰氏と岐阜市長松尾吾策氏の両氏があげられたが、多数会員が岐阜市長を支持したため、会長は松尾吾策氏に決定した。同日、柿ヶ瀬の松尾宅を訪れ快諾を得た。副会長には名和正男氏と高山市助役をお願いすることにし、理事長には郷 浩、事務局長には吉田幸平氏が任命された。

この年の秋、宮崎惇氏が「たにしの研究」なる冊子を発刊し、県立図書館長清信重氏の提唱する「百人の会」から研究費として十万円を贈られた。宮崎氏はこの十万円全額を投げ出して、岐阜県博物館要覧を出版して本協会に寄贈下さった。このことにより、本協会の存在は世の中に認められるようになったのである。

協会設立後、もっとも苦勞したのは経費の不足という点であった。その中において経費捻出のために、吉田幸平氏は東奔西走して募金された。ある時は白木菊花石館から、ロータリークラブから、百人の会からと寄附金を頂戴して機関紙の発刊ができたのである。

その後、当協会は東海地区博物館協会に加入し、昭和42年に岐阜県内では初めての総会を引き受けて高山市で開催した。昭和47年には、東海博協総会才二回目を郡上郡明方村で、本年は第三回目を関市の県立博物館で開催してきたが、当協会の面目が維持できたことと喜んでいる。

また、昭和47年には当協会才一回目の博物館学セミナーが開催され、以後年に数回は開催し、博物館知識の普及に努めている。

昭和50年 当協会主催の下に「学芸技術員認定講習会」を開催したところ、350名に及ぶ多数の参加者を得て、大好評を博した。これに刺激されてか、県下各市町村には郷土資料館が続々と設立され（特に小・中学校立、町村立が多い）、郷土の伝統文化財が陳列されて、これを保存しようとする機運が濃厚になってきたのは、うれしい限りである。特に岐阜県においては、岐阜県文化財保護協会（会員約1,000名）と

タイアップして、古い文化財の保存について密接に協力しており、これにより文化財保護の思想が県民の間に浸透しつつあることは、誠に喜ばしい。

当協会事業運営については、昭和49年度以降県教育委員会が多額の助成金を交付され、ついで岐阜市教育委員会や高山市からも助成金を戴き、益々発展しつつある。そして本年10月に、日本博物館協会全国大会が高山市で開催される運びとなった。無事の成功を祈って止まない次第である。

なお四年前、前副会長名和正男氏が逝去されたことは、当協会として誠に残念であった。同氏には生前の功績により、勲四等瑞宝章が授与された。機関紙「岐阜の博物館」第13号に同氏を偲ぶ特集をしたが、当協会設立以来の功勞者として、永く記憶に止めたい。

来年度は、日博協と共催して「郷土館の運営」という課題で本県において研修会を開催したいと考えている。多数の参加者のあることを期待する。

当協会設立以来14年間の出来事が走馬燈のように脳裡を去来してやまないが、これをもって筆を置く。

機関紙「岐阜の博物館」

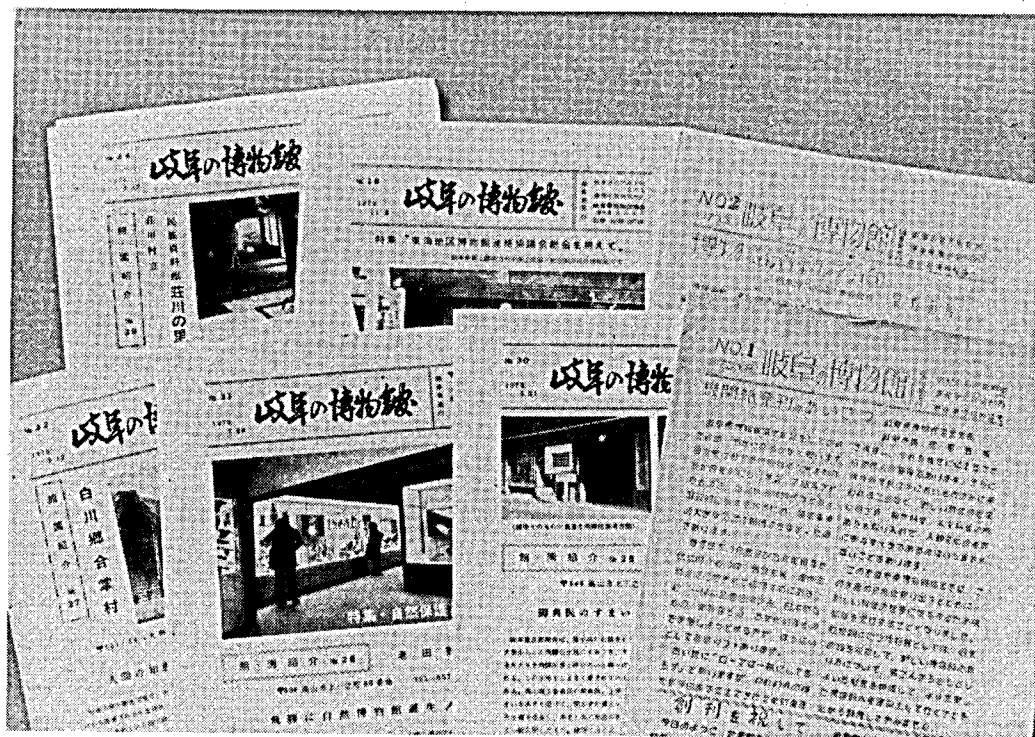
定期刊行・継続をこそ念じつつ……

岐阜県博物館 学芸員 小野木 三郎

第一号が出たのは、昭和45年1月、協会発足後4年を過ぎていた。組織はできたものの、財政的にも弱体、そのうえ当時は「博物館なるもの」への関心・認識も不足している中で、ごく一部の博物館好きな人間だけが集まり、博物館界の向上を／＼と燃えていた。4年もたてば、何とか現状を打破しよう、その具体策は？と機関紙づくりの声が出てくるのも当然で、館園紹

介を柱にして、まず県内の諸施設・機関等を広くPR、知り合おう。博物館にかかわるあらゆることの発言の場にしよう。県内各館園等の横のつながりを深めよう、情報を交換しよう……と、年6回発行計画と意気込んだものだった。

当初は、宮崎惇先生と私が、この全責任を負うはめとなり、資金不足の中で、全て手づくりで始まった。小野木が原紙を切り、ローラーを



※ 右端がローラーを手でまわして仕上げた創刊号

手でまわしての謄写印刷仕上げ、そして封筒書きから発送まで、一手に引受けている有様だった。第一回の館園紹介では、何百部といただいてきたパンフレットから、一枚のカラー写真を切りとり、これを一部一部はりつけて、「岐博協の機関紙はカラー写真入りだぞ」と気負ったのだった。

昭和45年8月には、「県立総合博物館建設に望む」を特集し、№4～5号を合併発行、岐阜地区ロータリークラブに泣きついて、タイプオフセット印刷、30ページで発行。けっきょく、第7号からは、タイプオフセット印刷が実現した。どんなに苦心して刷り上げて、謄写印刷ではいかにも貧弱、読んでいただくためには写真や図も入ったものに限る。以後、現在のスタイルで続けてきたが、原稿不足病で頭は痛むばかり、依頼原稿もなかなか集まらないのだった。編集子の独断・ひとりよがりの点も多く、批判の数々を受けつつも、とにかくまず発刊し続け

ることに専念した。それが、協会の存在表明になるし、一面的であっても歴史として残る唯一の有形のものであること、たとえ役員・事務局側からの一方通行情報であっても、県内各方面へ配布し続ければ、博物館界への理解者・協力者も生まれてくるにちがいないし、会員加入もふえてくるにちがいない。そんな信念からの頑張りであった。

目的意識も利害も、そして規模の大小、公共立、個人立等、百を越える県内の種々雑多な諸施設・機関、これらをガッチリ結びつけ組織化するためには、機関紙は何をどうすべきか、何の役にも立たず質的な高まりもできなかったが、どうにか36号まで6年間続いてきた事実だけは誇りである。定期刊行物が確実に手にとどくことは、会員としての自覚を持続させる根本である。年々会員数が増加してきたのは、やはり6ヶ年間の会紙発刊配布の成果ともいえるだろう。創刊号から始まった宮崎先生の「棚橋源太郎伝」

は6回まで連載して中断のまゝ、今だに私の心残りであるが、やっと軌道に乗ったばかりの「岐阜の博物館」、これからは、研究的要素を取り入れ、多くの博物館学関係者の発言の場と

なり、ひいては、岐阜の文化を支える「新しい地方の文化誌」として、永続されることを念じている。

(筆者、創刊号より、第34までの編集責任者)

■ 岐阜県博物館協会

博物館学セミナーの持つ歴史的展開

—— その学術的意義と研修 ——

岐阜県博物館協会 副理事長

中部女子短大教授 文学博士・哲学博士 吉田 幸平

岐阜県博物館協会が昭和37年6月 金華山の南端一水道山のユースホテルで結成式を挙げてから足掛15年の才月が流れた。この結団に参加した30数名中、現在協会に残っているのが、郷浩(岐阜城)氏と小生だけになった。その間その中心人物であった名和昆虫館長は4年前に他界し協会には致命的な打撃を受けた。当時協会には、予算 零という全くの無手勝流の出発であった。如何なる姿を画き、ビジョンを持ち、如何なるパターンを作り出すか大きな問題であった。事務局長を担当させられて、火花を打ちあげたが、後続、後援なしという全く、文化団体として内容は淋しい門出であった。

新聞には、「岐阜県博物館協会結成」
と編制が掲載されたが開店休業の状況で、東海博物館連絡協議会の当番県準備をしなければならなかった。この状況の中で、学芸員資格を持った青年学芸員の意見が強く、新樹立のもとに、協会は、学芸員部会を持った。

当時の学芸員(国家試験と大学の単位修得者
この頃、文部省の学芸員資格修得のための講習会はなかった。)を次に挙げる。

◎ 学芸員と機関誌「岐阜の博物館」

宮崎 惇, 竹村信弘, 柳瀬 司,
吉田幸平, 広瀬 鎮

これらの学芸員は、集まると日本の社会教育論や社会教育施設、社会教育機構について、断論風発し多くの議論を斗わしたが、何時も日本における社会教育の後進性をなげいていた。

宮崎学芸員は笠松中学校に教鞭を取っていたが、学校博物館を自然史を通じて型造ろうと、新機軸を打ち立て、廣瀬学芸員は、モンキーセンターに居ながら、未開拓の岐阜の博物館界を軌道に乗せるべくマスコミを利用して堅筆を振るい、岐阜の博物館界に警鐘を打鳴していた。竹村学芸員は、児童科学館にいながら、児童の自然科学への情熱を燃やしていた。

学芸員部会で最初なすべきことは、機関誌を作ること。それが孔版でも良いではないかという事で、最年少の資格取得者小野木学芸員にその担当を依頼し、学芸員記念として、才1号を刊行したのであった。孔版の機関誌は、彼の抜群の技術と相俟って、県下の類似施設への啓蒙宣伝にどれ程大きく貢献したか、予想をはるかに越えるものであった。現在の如く、県の補助金はなく、会員の微々たる会費であったが、社会教育施設に勤務する人達にとって、どれ程大きな指針となったことか。燎源に燃ゆる炎も正に一点の火花からであった。

当時の学芸員部会は良く集まり、正攻法で、

県下の博物館類似施設や私立施設に、小まめに廻り現場の声を聞くことにも努力をした。

これには、名和(副会長)、郷(理事長)という2人の名物博物館人が精神的支柱として存在していたことを特筆しなくてはならない。

しかし、より資質をレベルアップするには、個人会員の入会を認めることと、博物館学セミナーを行い博物館人としての学術的関心を強め人間交流を計ることであり、より協会的前進を念じ、各地域への啓蒙を計るため、「博物館学セミナー」を展開することになった。これには事務局員としての個人会員等が大きく活躍した。

「来るものは拒まず、去るものは追わず」というのがモットーであった。

◎ 博物館学セミナー

博物館界程タレントの多い世界もまずない。博物館人1人1人が、その道の研究者であり、セミナーの講師を他の世界から招聘する必要はなかった。この企画は、講師と場所を立案すれば、身内と云い観念から格安の講師料で実施出来たことも見逃せなかった。

- 最近3ヶ年間のセミナーのテーマー

1978

1/21 岐阜セミナー

『国盗り物語り』(NHK)

百貨店展示を巡って協会支援は如何なる方法で望むか。 郷 浩(岐阜城館長)

2/4 モンキーセンターと合同セミナー

国盗り物語りに忘れられた2名将
日根野備中守弘就 吉田学芸員
衣斐丹石軒宗誉

4/1 高山セミナー

- ① 飛驒における化石と自然保護
山腰 悟(飛驒福地記念館長)
- ② 飛驒の流人
(故) 桑谷正道(飛驒春秋主宰)
- ③ 飛驒における江馬一族と三木自綱を巡って
(故) 小林 幹(高山郷土館長)

5/13 奥美濃郡上セミナー

- ① 奥美濃の民芸と水野柳人



高山市「飛驒の里」でのセミナー風景

詩人 水野 隆(おもだかや館長)

② 郡上藩凌霜隊

速水小三郎と矢野原与七

野田直治(大和村史編纂長)

③ 郡上百姓一揆

鈴木義秋(郡上北高校長)

④ 国盗り物語を巡って

郷 浩(岐阜城館長)

郡上セミナーは盛会で80人の参加者あり。

6/10 岐阜セミナー

① 博物館的に見たる百貨店展示の実践

吉田学芸員

(斉藤道三展を巡って)

(東京・大阪・神戸・名古屋・横須賀
主として大丸百貨店展示学芸指導)

② 県下博物館施設の考古学的展示

岐阜県青年考古学研究会

③ 北海道の博物館探訪 小野木学芸員

7/8 恵那郡(東美濃)岩村セミナー

① 岩村藩と函館

④ 岩村藩士 三田官兵衛函館行記録

熊谷博幸(明智小学校)

⑤ 函館焼における為治の役割

古川庄作(岐阜県陶磁器陳列館長)

② 美濃における山茶碗の編年

田口昭二(小泉小学校)

③ 岩村城の歴史

田中健太郎(教育長)

④ 明智光秀の虚像と実像 吉田学芸員

9/2 岐阜セミナー

- ① 蜻蛉の生態を巡って 柴田学芸員 国学院大学
- ② 博物館職員(学芸員)の講習会について 野村学芸員 ICOMの究進的方向性 吉田学芸員
- ③ 飛驒宮川村の民俗を巡って 名古屋市観光会館
- ④ 宮川村の小祠堂について 岐阜県博物館協会の博物館事業
社会教育の充実運動
- ⑤ 宮川村の円空を巡って 服部良男(蓬左文庫) 博物館学セミナー実践報告 吉田学芸員
- 10/21 西濃赤坂センターセミナー 瑞浪セミナー 瑞浪化石館
- ① 赤坂の陸棲の貝 大垣内 宏 ① 東濃道の古窯について 古川庄作(阜陶磁器陳列館長)
- ② 花岡山古墳 清水春一(大垣市教育委員会) ② 瑞浪の旗本大名領について
- ③ ざるの分布 松久喜枝(美濃民俗) 10/8 美濃市セミナー 白山山岳信仰と高賀信仰について(於岐阜県郷土史連絡協議会) 吉田学芸員
- ④ 宮川村の民家 高橋氏(ビゾン) 12/8 岐阜セミナー 名和昆虫博物館
- 11/4 岐阜セミナー ① 銅鉾文化圏 田中学芸員
- ① 国盗り物語りの総括的展開 郷 浩(岐阜城館長) ② 博物館学の問題点 広瀬学芸員
- ② 最近の博物館界動向 広瀬学芸員 12/13 愛知県博物館協会と合同セミナー
- ④ 日本博物館学会結成について 学芸員受験者のための講習会
- ⑤ 国際動物園会議開催報告 博物館学 柴田敏隆(横須賀市立博物館)
- ⑥ 日博協評議員会報告 社会教育概論 広瀬 鎮(モンキーセンター)
- 1974 教育原理 滝本正二(市立名古屋科学館)
- 6/30 岐阜セミナー 1975
- ① 仏像美の探究 (故)花林尚雄(県文化財審査員) 4/2 事務局会議で、100に近い民俗資料館で勤務する人達に協会独自の学芸技術員資格附与の認定講習会を開催することについての立案
- ② 県立総合博物館の展示 (人文と自然) 宮崎学芸員 5/25 総会において上記「学芸技術員資格附与講習会」実施決定し、準備を開始。
- 7/28 多治見セミナー 「棚橋賞」を設け、併せて、棚橋賞を名和正男(故)昆虫博物館長に附与
- ① ICOM参加報告 吉田学芸員 9/26・28 学芸技術員認定講習会 於くすり資料館
- ② 多治見における旧石器について 田口昭二(多治見小学校)
- ③ 虎溪山周辺における植物 山本家博(多治見南姫小学校)
- ④ 欧州博物館巡り 吉田学芸員 9/27 参集者 355名
- 8/9 モンキーセンターと合同セミナー ① 博物館学 広瀬 鎮(モンキーセンター)
- ① 学芸員討論会 広瀬学芸員座長 ② 文化財保護法改正解説 吉田 豊(岐阜県教委文化課長)
- ② ICOM会議の方向性 吉田学芸員 ③ 博物館社会教育論
- 8/18 才1回日本博物館学会研究発表

金子 功 (御園科学センター館長)

④ 仏教美術概論

石田豪澄 (貴異美術館長)

⑤ 自然史教育論

名和秀雄 (名和昆虫博物館長)

⑥ 飛驒の里 開設を巡って

長倉三朗 (飛驒の里名誉村長)

⑦ ミニ博物館経営を巡って

土田吉左衛門 (飛驒集古館長)

9/28 ① 自然史教育論

小野木三郎

(機関誌編集員・学芸員)

② くすり資料館展示論

青木允夫

(くすり資料館長・医博)

③ 民俗学概論 山の神信仰論

堀田吉雄 (伊勢民俗学会会長)

④ 考古学概論

大江 命 (日本考古学会会員)

⑤ 美濃古窯論

古川庄作

(岐阜県陶磁器陳列館長)

⑥ 甲冑展示論

吉田幸平 (文博・哲博)

⑦ 博物館運営論

郷 浩 (岐阜城館長)

以上最近のセミナーについて述べたが、地方にあって、中央の日博協や日博学会の刺戟や指導者に恵まれない地方協会として、協会の資質向上のため出張セミナーや、研究発表として、この程度にしか展開出来なかった。当協会が真に社会教育の一郭にあって、今後如何なる方向に前進し、方向づけが出来るのかが、大きな課題である。

岐阜県博物館協会に望む

岐阜県博物館協会監事

岐阜県文化財保護協会常任理事 藤田松太郎

岐阜県民永年の懸案であった県立博物館が完成され、五月開館の運びに至りました。本県は幸にも知事殿が、文化県をめざす政策を強力に打ち出され、その上県関係各位の絶大なるご努力があったことに深く感謝致しております。

本県の豊かな今日の姿を見るとき、私達が常に想起しなければならないのは、多くの人達により残された尊い文化遺産や歴史、自然を大切に保存するとともに、将来の岐阜県を築くために有効に役立たせねばならないということです。

そのためには県内の館園が所有したり、人目に触れず眠っている資料を研究開発して、その成果を公開することが大切な事であります。

そこで、県内の公立私立の館園相互の連帯と協調を如何にして計り発展させるかを考える事

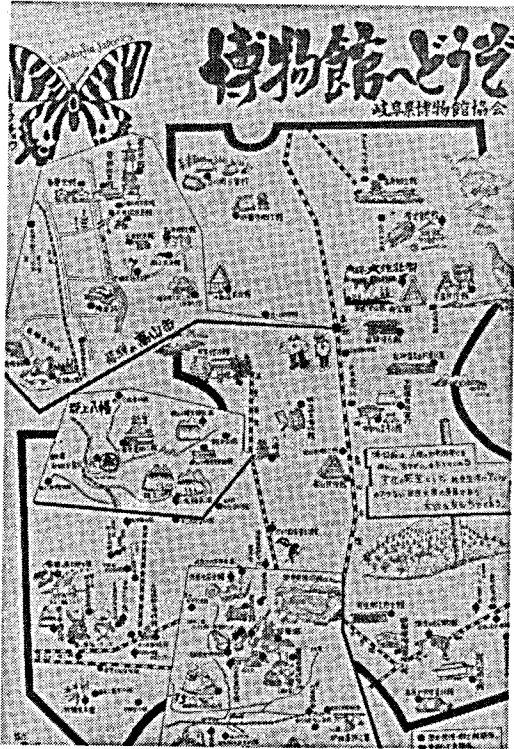
が重要であって、その世話役、音頭取りこそ岐阜県博物館協会の大事な使命であると思います。

また、博物館や美術館は言葉以上の響きをもって訪れる人達に語りかけるのですから、館における展示、解説、資料収集などについての、指導や助言が大切になってくるわけで、当協会はその指導者としての使命もあるわけです。

これらは、セミナーを開催し、機関紙を発行し、学芸技術員講習会などを行っている当協会ならば、容易に可能なことであります。

本協会員、ならびに事務局のご努力により、県民の学術及び文化の発展向上に、一そう寄与せられることを切望するとともに、本協会の今後ますますの繁栄を心よりお祈り申し上げます。

やれば、何とかなるサの精神で……



岐阜県博物館協会事務局
内藤記念くすり資料館 学芸員

古田 恵子

このポスターを目にして、あゝ、あそこにはあんな施設があったのか、今度行ってみよう…と思われた方などもあり、その効果は十分果たしたと思われます。この実践の中から、過去に限定 150 部で出版された「岐阜県博物館要覧」が、7年の年月を過ぎ、内容的にも変化し、またまったく入手不可能な現状から、全面的に改訂し、最新の要覧として出版しなければならないことが浮きぼりにされてきました。

ひとりでも多くの方々の、知的レジャー、自己教育のための手引書としての活用をオーに考え、協会々員・非会員を問わず、県内から最大限の情報を収集し、アンケート調査にもとづいて編集されました。

これまでの機関紙編集の仕事振り腕前から、小野木さんを最高責任者に、二度・三度とアンケート返答催促などの苦勞の結果、まとめあげられたもので、便宜上、歴史の部・民俗の部・美術の部・自然科学の部・動植物園・水族館・鐘乳洞の部と5大区分され、一館一頁建てで、写真・略地図入り、施設の概要・特色その他利用に必要な事項が紹介されています。

詳細に載せられているのが75館園、所在地

事務局を訪れて下さる遠方からの博物館関係者の方々に、「博物館へどうぞ」のポスターと要覧とお見せすると、たいていの方から「これはいいですね。」「すばらしいものですネ。」とおほめいただいています。

黄色地に黒一色で描かれたポスターは、岐阜県の模式図内に、代表的な館園をイラストで描いた絵地図で、作者小野木学芸員（当時各務原市立稲羽中学校教諭、本会理事兼編集長）の、きめ細かな線画が、ほのぼのとした雰囲気をもし出しています。資金面で、飛騨大鐘銅の大橋宣嘉氏、岐阜文芸社の飯尾寛氏のご援助により発行できたもので、協会の当初予算を使わない特別事業で、これは、ひとりでも多くの方々に、県内の施設を知っていただき、利用していただきたいとの協会を意を察して、小野木さんが情熱を傾けられた賜物でした。



と名称だけの紹介が31館園で、総数106館園が収められています。博物館及びその類似施設等は、多くの方々に見ていただき活用していただいでこそ存在価値があります。利用する側も利用される側も、この要覧を仲だちに、とくに

精神文化生活面での進歩・発展に目を向けられたなら、協会の事業活動としては大成功にちがいありません。情報の収集もれ、訂正事項等を補い、改訂版を発行しながら、広くこの要覧が利用されることを祈るばかりです。

学芸技術員認定講習会開かる

～ 県下博物館界の資質向上と発展を願って ～

岐阜県博物館協会事務局長

内藤記念くすり資料館々長・医学博士 青木 允夫

創立13周年を迎えた岐阜県博物館協会は、去る50年9月27・28日の両日、県下の博物館界の資質向上・発展を願って「学芸技術員認定講習会」を実施した。このような企画は全国でも類を見ないもので、さまざまな話題を集めた。詳細は以下のようなものである。

主催 岐阜県博物館協会
後援 岐阜県文化財保護協会
会場 内藤記念くすり資料館

9月27日（土）

- ※ 博物館学 広瀬 鎮
(日本モンキーセンター学芸部長)
- ※ 文化財保護法改正解説 吉田 豊
(岐阜県教育委員会文化課長)
- ※ 博物館社会教育論 金子 功
(御園科学センター館長)
- ※ 仏教美術概論 石田 豪澄
(貴異美術館長・厳屋寺住職)
- ※ 自然史教育論 名和 秀雄
(名和昆虫博物館長)
- ※ 飛驒の里開設を巡って 長倉 三朗
(飛驒の里名誉村長)
- ※ ミニ博物館経営を巡って 土田吉左エ門
(飛驒集古館長)

9月28日（日）

- ※ 自然史教育論 小野木 三郎
(岐阜県博物館学芸員)
- ※ くすり資料館展示論 青木 允夫
(くすり資料館長)
- ※ 民俗学概論 清水 春一
(大垣市教育委員会社会教育課長)
- ※ 考古学概論 大江 命
(日本考古学会々員)
- ※ 美濃古窯論 古川 庄作
(岐阜県陶磁器陳列館長)
- ※ 甲冑展示論 吉田 幸平
(中部女子短大教授)
- ※ 博物館運営論 郷 浩
(岐阜城館長)

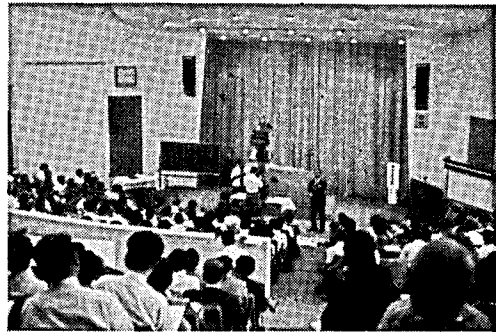
受講者は当初の予想をはるかに上まわる350名にものぼり、その職種も中小博物館勤務者は言うに及ばず、教師、学生、文化財を持つ寺社関係者、各市町村教育委員会の人々など多岐にわたり、大きな反響を呼んだ。

現在、県下には90余の博物館施設等があり、こうした個人的館園の為の講習会、文献は皆無に等しく、展示や資料保管など多くの悩みを抱える人々や、眠ったままの文化財を死蔵させる

ことなく何とか社会に役立てたい、と思ひ寺院関係者の願ひが、底辺から爆発した感がある。

仕事のかたわら、ようやく学芸技術員の資格を取得したMさんは、「博物館がいかに正しく認識されていないか、又、いかに一般市民との結びつきが弱いかがわかるにつれ“博物館の大衆化”を考えていた矢先」受講の機会を得、さらにSさんは「博物館が本当に生きた生涯教育の場として開かれる為に、……在野の知識を啓発する必要を感じた。“知識を学んだのではなく、知識を身につける技術を替んだ”思ひだ。」と感想を述べている。山深い寺で郷土史を研究しながら一生を送ろうとしているK大学の四年生は、今回知り得た300人余の志を同じくする人々と

の力強い連帯を一つの支えとしていこう、とも述べている。これを契機として、同じ悩みを持つ同志を見出し、やがて楽しい研究の場が育っていくことを強く期待して止まない。



学芸技術員認定講習会風景

岐阜県博物館協会に望む

岐阜県博物館協会監事・岐阜県文化財保護協会常任理事 石川良宣

私が岐阜県博物館協会に関係を持つようになったのは昭和46年頃であったと思ひ。郷浩君の要請である。吉田幸平君の依頼でゼミで話をした事もある。いつの間にやら監事になっているのに驚ろいた。郷君にその理由を聞くと「君は県庁で顔がきいて都合がよいから。」と言うことであつた。あきれたものだ。

この当時の岐阜博協の予算はまことに微々たるもので、よくこんなことで運営が出来るものと感心(寒心)した。然しゼミもよく聞き、若い人も数は少なかったが皆熱心であつた。そして会合のものをまとめて本に出した事もある。その時分から見ると少し熱が下つた感がある。

出席の度毎に県・市方面から助成金を貰うように努力すべきであることを進言した。4・5年前から、ようやくこれが実現したのは結構な事である。

岐阜博協の発展の基は物心両面によることは当然であるが、別して経済面に於て今少し努力すると共に早目に計画を樹てるべきである。今度の日博協高山大会がそのよき例である。今か

らでも遅くないので、官庁方面へのテクニックを研究すべきである。唯強気一辺倒ばかりでは駄目である。

会長は上松岐阜市長、副は郷岐阜城館長、理事長は長倉高山飛驒の里名誉村長、そうそうたるメンバーである。立派に活躍出来る筈である。

願ひ所は会員相互関係をより親密にして有無相通ずることである。幸に県立博物館も開設された事であるから、こゝを中心に(一寸頼りないが)一層の発展を計って欲しい。県博物館が出来上つたからもうよしといふような安易な気持でなく、度虚に岐阜博協と連係を持ち、共々に研究の実を上げるようにして欲しい。このことは県博物館が岐阜博協を育成することであり、自利利他の精神に通ずることである。

相互扶助のもとに希望と自信をもって、前進また前進を続けて欲しい。〔勇躍せよ! 努力せよ断じて休むことなかれ、汝は男なればなり〕
ロマン・ローラン

頽齡の筆を選び編輯者の望みの一端にこたえ責を果すことにする。

会計係として事業運営に参加して

岐阜県博物館協会理事 上村 修

私が、岐阜市岩戸花月町の吉田幸平先生のお宅にお伺したのは、昭和47年6月中旬のよい天気の日でした。この日、私は岐博協のことに、色々お話しを聞きたいと思ったからでした。話しは岐博協のこと、私の現在のことなどだんだん話している間に、今度岐阜県より補助金を岐博協に支出してもらうことになり、ぜひ会計係をしてもらいたいと吉田先生より申し出がありました。今までは、民間の任意団体としての存在で、会員館園も個人会員も共に少なく井勘定をしていたとのことでした。会計は私が主となり、松本秀夫氏に応援していただいて、事業を行いたいとの話でした。

岐阜城館長郷浩先生の大仏町のお宅で、郷先生立ち合いで私は吉田先生より今までのお金を受取ると共に昭和47年度の会計を行うことにしました。とりあえず8月10日金華山展望台に於ける第10回岐博協総会より会計事務をすることになりました。

8月8日、私は吉田先生と総会に於ける最終打ち合わせを行い10日の総会に出席しました。この時は収入と支出について具体的な計画はありませんでした。ただ昭和47年4月より8月10日までの収支についての報告をしました。

総会に於ける、岐博協の今後の活動方針を実行するには、岐阜県よりの補助金、館園個人会費及び各種事業に参加された方々よりの会費にて運営することにしました。それは、最初吉田先生からお話しをお聞きした時には、東海博物館連絡協議会加入の5つの県のなかで最下位にある博物館協会は岐博協だとゆうことでした。

協会活動が出来ておらぬことは、県内の博物館及び類似施設館園の方々に対して申し訳のない事です。私は岐博協に対して会費を出したり

応援して下さる方々に有形無形のお返しをしてあげなければならぬと思いました。会計係としての考えは、岐博協が各種館園の方々及び岐博協に協力しておられる個人会員に対して、勉強していただく場としての博物館学セミナーを行うこと、機関誌を通じての博物館情報の提供及び施設館園の方々の親睦をはかる橋渡しをさせてもらうことです。少い費用で最大限に有効な使用方法の計画を立て、実行することにしました。

8月22日夜吉田先生のお宅にて第1回セミナーの相談をしました。セミナーに県内各地より参加される人に少しでも少い費用で出席していただく為、当日の参加者にはコーヒー代ぐらいの負担をお願いすることにしました。そして9月3日に第1回のセミナーを開催しました。それからセミナーのため事務局長吉田先生、松本氏と私は無報酬で松本氏宅にて月に何回も会合を持ちました。

セミナーだけでは協会加入館園側の意見が分かりません。各館園に対してアンケートをもとめましたあまり返事が来ませんでした。これでは駄目だと思い館園長会議を開いて館園の希望意見、其の他何でも岐博協が出来ること、又出来るように持って行く事業について話し合いの場を作るため昭和49年2月17日第3日曜日に開催しました。

セミナー、館園長会議、アンケートなど、何とか多くの人より良い知恵をお借りして、岐博協が皆様方に少しでもお役に立つようと思いました。それは、本当に心から思ったのではなく、それによって「自分達は、すばらしい岐博協にしたい。」と野心満々の気があった事に気がきました。

小野木三郎先生がセミナー集第1号の編集にさいして、印刷費を7万5千円程度にしておられるとの話しを聞き、それでは折角の本が貧弱になるから12万円程度までお金を支出しますので、その程度の本にして下さいと電話しました。しばらくして、松本さんから連絡があり、15万円で作るように編集してもらったからお願いしますとのことで、残金及び今後の計画とも見当して、次年度の総会に金を使わぬように

すれば何とかやってゆけると分りましたのでOKしました。セミナー集も7万円程度では24ページ程度にしかならず、セミナー集を作ったとは言えません。少くとも40ページ以上なければと思っていましたが、表紙共に50ページの本が出来上りまらずと思いました。

協会旗、テープレコーダー及び謄写版購入の時にもお話しはありました。それらの事は次の機会に書かせていただきます。

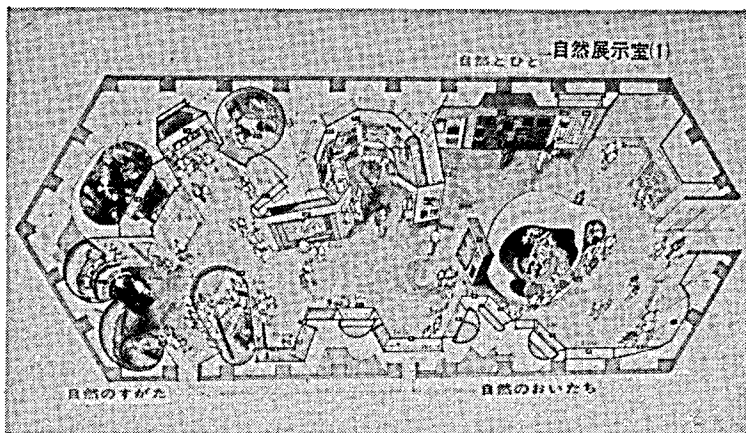
岐阜県博物館建設への声援の歴史

岐阜県博物館協会広報委員・学芸員 田中淑紀

岐阜県にりっぱな県立の総合博物館をつくることは、本県博物館界の大きな願いであった。岐阜県が、置県百年記念事業のひとつとして、博物館の建設を打ち出されたことは、教育日本一を旗じるしにしておられる平野県知事にとって、まことによい計画であった。再三県当局へ博物館の必要性を訴えていたわれわれの気持ちに通じていたのである。

この計画をキャッチした本協会では、よりよい博物館を後世に残すため、岐阜県文化団体会議（会長江口三五氏）や岐阜県自然環境保全連合（会長今西錦司氏）等と手を取り合って、数度にわたり要望書の提出や知事との懇談会を持ったり、百年記念事業委員会へ陳情した。

そのうちの二大キャンペーンを紹介したい。昭和45年8月、この機関誌「岐阜県の博物館」第4・5号を合併号とし、今までの謄写印刷を活版印刷にかえ、30ページの特集号「県立総合博物館建設に望む——今日を救い、あすを創造

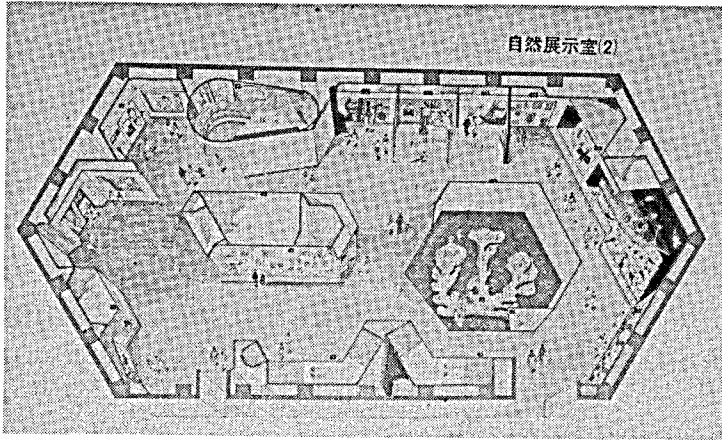


追加された「岐阜県博物館自然展示室(1)」

する、その姿を求めて——」を発行し、各界の声を集録して県当局へ提示した。

共に、県民の幸福を願い、人類の将来を考えた『ほとばしる声』であり、『にえたぎるルツボ』であった。百年記念事業の委員長であった岐阜大学学長今西錦司氏は、ゴッソリとひと山、全山を博物館として残すことを提案した。これが本当の自然ですというものを残しておきたいというのである。それ程自然破壊が県下で進んでいたわけである。

この出版費用は、この企画に賛同された菊花石館館長白木孝一氏や長良川ロータリークラブよりの寄付金によった。協力に対し感謝したい。



追加された「岐阜県博物館自然展示室(2)」

つづいて同45年9月、「岐阜県総合博物館の建設につづいて — 要望書と構想案 —」と題し、12項目、11ページをタイプ印刷して、岐阜県知事平野三郎氏あて提出した。

ここでは、総合博物館はどうあらねばならないかをみると説明し、学芸員は研究職とし、助手をつけることまで進言し、本協会とのかかわりまで具体的に言及した。

しかるに、昭和46年3月頃の県の構想では、歴史博物館にとどめるべきだという考えを持っておられることがわかり、知事あての公開質問状の原稿まで準備したが、その後知事との話し合い、文化人との懇談会やその人びとへの働きかけ等により、昭和46年10月に発表された「岐阜県博

物館建設基本構想」では、人文・自然両分野にわたる総合博物館とすると発表され、公開質問状はとりやめとなった。

その後、展示基本計画が昭和48年暮発表されるや、いち早くこの全文を機関誌に掲載し、広く県下の博物館界へ流し、意見を求める等進んでよりよき県博物館設立のため意を注ぎ、心からなる声援を送ってきたのである。

外から見た岐阜県博物館協会

今後に望むもの……

岐阜県博物館協会顧問
日本モンキーセンター学芸部長

広瀬 鎮

本年は、才24回全国博物館大会が岐阜県下で開催され、全国各地から高山市へ博物館関係者が多数やってこられます。大会テーマ「伝統文化に関する博物館の諸問題」を論ずるにふさわしい場所です。岐阜県博物館協会加盟の館園の方々も御準備で追われ大変でしょう。

不思議な縁で、木曾川一つへだてた愛知県から岐博協結成以来、何かと博物館の勉強会に馳せ参じてまいりますうちに名誉ある顧問職の委嘱を賜わり恐縮しております。昭和51年度の岐博協の事業計画には、昨年に続き他県に例をみない学芸技術員認定講習会の開催が予定されております。この認定講習会こそ岐博協が、博

物館社会教育の何たるかを世に問い、技術の向上に、博物館職員の人格陶冶に万丈の気を吐いているものであります。「参加者の感動は素晴らしい、ぜひ多くの方に知ってもらいたい」寄せられた数多くの感想文を拝見した折りの青木允夫事務局長さんの言葉であります。

良いことであつたら全力をあげて進めて行く若々しいエネルギーをもつ岐博協に期待します。

設立以来関係しておられる博物館関係の会員の方々の努力の一つ一つを存じあげております。

諸事業に私心を忘れ協力、尽力された姿に接しますと助け合いこそが、協会を今日あらしめたのだと思います。昭和51年5月5日の岐

岐阜県立博物館の設立は、今後の協会運営にも多くの強力をよりどころとなるものと思いますが、民間組織として成立された輝かしい伝統をもつ岐博協は、公共機関性を強く持つ、公私にわたる博物館やその類似施設、大小規模のそれぞれ異なる博物館施設のまとめ役として、今後ともますます、独自性を生涯教育・文化センター的機能面で発揮して頂きたいと思うのです。

今は亡き名和正男先生は、口をひらけば、「博物館職員の身分保証・相互扶助」を訴えておられました。名和先生の参加された博物館関係の会合でこの発言をされなかったことは、一回もなかったのではないかと思います。「一館一館は微力であるが互いに力を出しあえば大きなことが出来る。」名和先生は弱年後輩の私にもいつもこう云っておられました。県立博物館は、多くのエネルギーを県下の弱小博物館の育成のためにも費すべきでありましょう。必死になって活路を見出そうとしている民間小規模館に助手の力をさしのべ共にその前途を考えるべきです。すでにこのような博物館事業プロジェクトをもつ県立博物館も出現してきているのです。

岐博協の月例の博物館学セミナーは実に多く

のことを学ばせてくれましたし、今後も学芸職員のよりどころにもなる学習会であります。気軽にあつまってそれぞれの専門性に立った苦心談や、研究成果が発表され、公開される全国でもユニークな研修研究会であるだけに、休むことなく続けて頂きたいのです。博物館活動を守るものは、己を貧しくしてはならないと思います。人と人とが信じ合い、愛しあって文化は育てられるものでありましょう。このようなことを肌身に感じて教えてくれたのが、個人会員を認めている岐博協の博物館学セミナーであったのです。諸事業担当の協会理事の諸先生方の熱意あふれるお仕事ぶりを、多くの博物館の方々知って頂きたいと私は思うのです。分野も、規模も、性格もことごとく異なる県下の諸施設を一つにまとめあげた原動力は何なのでしょう。願わくば、岐博協は、こまかい私情をこえた公共へのサービスを原点として、ますます個々の館園が博物館として一館一館が成り立って行くための工夫や諸検討と、協力を具体的に進めて行かれることを切に望むものであります。

今後の岐阜県博物館協会の御発展を念じてやみません。

■ 岐阜県博物館協会機関紙

岐阜の博物館

№1～36 総目次

機関紙「岐阜の博物館」発刊の経緯及び以後の経過については、本号7ページに小野木三郎氏が述べておられるとおりである。

ここに、創刊号より第36号までに記載された内容を列記し、岐阜県博物館協会の歩みと県内博物館界のうごきを回顧するとともに、今後進むべき方向を考える糧としたい。

№1 1970. 1. 8 発行

館園紹介 №1 「郡上八幡鐘乳洞」

・機関紙発刊のあいさつ

岐博協会長・岐阜市長 松尾吾策

・創刊号を祝して

岐阜県教育長 深井重三郎

・「岐阜の博物館」刊行を祝して

日本博物館協会々長 徳川宗敬

・博物館学メモ① ミュージアムの起源

・棚橋源太郎伝(1) 誕生 宮崎 惇

・館園ニュース 名和昆虫博物館ほか9館の行事を紹介

- ・ブックコーナー 博物館関係書籍を紹介
- ㊦2 1970. 3. 8 発行
館園紹介㊦2 「下呂温泉合掌村」
・博物館活動の方向
日博協事務局長 星野直隆
・棚橋源太郎伝(2) 命名 宮崎 惇
・館園ニュース 日本愛石館など3館紹介
・会費納入を催促 事務局
- ㊦3 1970. 5. 8 発行
館園紹介㊦3 「福来博士記念館」
・世界のこん虫展を見て 小野木三郎
・棚橋源太郎伝(3) ばばさま 宮崎 惇
・事務局より「博物館研究」を読みましょ
う。万国博で展示方法などを学ぼう。
- ㊦4・5 1970. 8. 21 発行 特集号
館園紹介㊦4 「神岡郷土館・神岡城」
・「県立総合博物館建設に望む。」を特集
名和正男岐博協副会長挨拶、今西錦司岐
阜大学長、清 信重 前図書館長ら有識者
多数の声を掲載。
・県外流出資料の例 吉田幸平
・棚橋源太郎伝(4) 京・大阪の見学 宮崎 惇
・館園ニュース 奥美濃おもたか家民芸館、
国立科学博物館の新展示紹介。
- ㊦6 1970. 11. 8 発行
館園紹介㊦5 「飛山民俗館」
・教育部門の設置と社会心理学の活用を
東京教育大学 松原達哉
・棚橋源太郎伝(5) 化成舎 宮崎 惇
・事務局より 会費を納入してください。
- ㊦7 1971. 2. 28 発行
館園紹介㊦6 「菊花石館」
・会長就任あいさつ 岐阜市長 上松陽助
・博物館活動の拡充私案 郷 浩
・博物館メモ③生涯教育と博物館 小野木
三郎
- ・棚橋源太郎伝(6) 小学校時代 宮崎 惇
・岐阜県の博物館施設一覧表 歴史23, 民
俗17, 美術11, 自然科学12, 動植物園・
水族館8, 岩石園・鐘乳洞4, 計75館園。
・岐阜県博物館協会規約。
- ㊦8 1971. 6. 28 発行
館園紹介㊦7 「岐阜天文台」
・余暇利用に天文台通いを 池谷 薫
・県立博物館建設によせて
岐阜県社会教育課 後藤 勝
・県内ニュース こどものためのこん虫展、
内藤記念くすり資料館開館、岐阜県文化
財保護協会設立、第19回 全国博物館大
会案内。
- ㊦9 1971. 9. 10. 発行
館園紹介㊦8 「内藤記念くすり資料館」
・岐阜県博物館協会のみなさまへ
エーザイ川島工園、内藤記念くすり
資料館理事長 内藤 豊次
・博物館の起源と目的
スミソニアン博物館 サミ・ハマネ博士
・県内ニュース 上宝村福地温泉に化石館・
民俗資料館開催、陶磁器陳列館無料公開、
岐阜県自然環境保全連合結成。
- ㊦10 1971. 11. 1 発行
館園紹介㊦9 「秋神温泉山村資料館」
・旅館経営と資料室のあり方 小林 繁
・ソビエトの博物館(1)
岐博協事務局長・文学博士 吉田幸平
・県内ニュース 白川郷合掌村仮オープン
明善寺庫裡郷土室、飛騨民俗村に山岳資
料館オープン。
・岐博協総会の案内。
- ㊦11 1972. 1. 15 発行
館園紹介㊦10 「岐阜県陶磁器陳列館」
・岐博協新役員紹介

- ・岐阜県博物館基本構想案発表さる 編集部
- ・ソビエトの博物館(2) 吉田幸平
- ・岐阜県の博物館施設一覧表 歴史 26, 民俗 20, 美術 13, 自然科学 14, 動植物園水族館 9, 岩石園鐘乳洞 6, 計 88 館園。
- ・県内ニュース 揖斐川町郷土資料館誕生, 美山民俗資料館開館, 爬虫類センター関ヶ原に, 下呂温泉峰一合遺跡公園に考古館開館。
- ・岐阜県博物館建設に要望書提出 編集部

№12 1972. 4. 8 発行

館園紹介 №11 「関ヶ原大爬虫類センター」

- ・岐阜県博物館建設に協力を
岐阜県博物館協会長 上松陽助
- ・東海地区博物館連絡協議会岐阜大会に望む
モンキーセンター学芸部長 広瀬 鎮
- ・大いなる死滅の歴史に学びましょう。
関ヶ原大爬虫類センター社長 朝居俊雄
- ・爬虫類に関する私的的研究について
東海小動物研究所長 上田 敏
- ・短信 池村教育資料館ほか 3 館紹介
- ・故名和正男氏を悼む
- ・県内ニュース 岩村町郷土館七月に開館,
怪力庄助の家民俗館に
- ・東海地区博物館連絡協議会総会計画案

№13 1972. 4. 25 発行 特集号

- ・岐阜県博物館協会副会長, 名和昆虫博物館長, 故名和正男氏を偲ぶを特集
名和正男氏略歴, 皇室来臨解説の栄誉, 研究業績, 社会業績, 文化交流, 表彰, 役職一覧, 各界からの弔辞などを掲載。

№14 1972. 7. 12 発行

館園紹介 №12 「中部山岳考古館」

- ・岐博協諸氏のご協力とご指導を
益田郡下呂町役場 商工観光課
- ・東海地区博物館連絡協議会岐阜大会に望む
横須賀市博物館学芸員 蟹江康光

- ・博物館に相当する施設の指定手続変更について 編集部
- ・博物館学メモ(3) 自然史分野の展示はどうあるべきか
稲羽中学教諭・学芸員 小野木三郎
- ・短信 岐阜天文台 8 月行事の案内。
- ・県内ニュース 岐阜県博物館の動き, 瑞浪に化石博物館計画, 揖斐川町郷土資料館盛況, 養老に自然こん虫園, 民俗資料館あちこちで, 根の上高原に山草園づくり, 高山藤井美術民芸館が開館。
- ・昭和 47 年度 総会案内。

№15 1972. 9. 8 発行

館園紹介 №13 「池村教育資料館」

- ・岐阜県博物館協会役員一覧
- ・岐阜県博物館に懸ける夢
国立科学博物館事業部長 鶴田聡一郎
- ・昭和初年の岐阜県博物館界 宮崎 惇
- ・副会長就任に当って ひとりひとりが文化財破壊防止の戦士となろう
岐阜城館長 郷 浩
- ・新理事長就任に当って
文学博士・学芸員 吉田幸平
- ・県内ニュース 郡上八幡に=美術館誕生。

№16 1972. 11. 8 発行 特集号

館園紹介 №14 「明方村立博物館」

- ・東海地区博物館連絡協議会総会を終えてを特集
- ・来賓挨拶 日博協専務理事 星野直隆
- ・シンポジウム “現在の博物館における問題点” 金子功氏ら六名による
- ・金子氏ら四氏に感謝状贈呈
- ・東海大会に参加して 岐阜はよいとこ
神奈川県博協副会長, 記念艦三笠艦長 福地誠夫
- ・岐阜県博物館構想を聞いて
モンキーセンター学芸員 大竹 勝
- ・県内ニュース 祐教コレクション展示館,

郷土玩具館誕生，大野町に民俗資料館。

- ・学芸員の試験期日せまる
- ・博物館学セミナー軌道に
- ・第2回セミナー質問より 岐阜県内のよ
うな小規模施設の対策は。
- ・博物館相当施設申請の手続きと様式
- ・岐阜県博物館協会表彰規程。

№17 1973. 1. 28 発行

館園紹介№15 「片野記念館」

- ・くすり看板 内藤記念くすり資料館
医学博士 青木 允夫
- ・昭和48年度博物館学セミナー予定と過
去の足跡
- ・県内ニュース 神坂文化資料館できる
瑞浪に化石博物館の構想，「濃飛の文化
財」第3号発行される，隠れたベストセ
ラー岐阜城物語
- ・事務局日より 岐阜県内博物館所在地図
作成の計画について。

№18 1973. 3. 18 発行

館園紹介№16 「飛驒の里」

- ・郷土資料館蔵物二点について
揖斐川町立郷土資料館長 古田佐久間
- ・岐阜県博物館協会規約改正案
- ・事務局より 才6回博物館学セミナー高
山飛驒の里へどうぞ，博物館セミナーの
記録出版について，規約改正について，
職業別電話帳「博物館」のページにあな
たの館を，生涯教育こそ！
- ・県内ニュース 大橋さんの化石展示場計
画中，分水嶺湿原植物園を，鶺鴒資料館
関に。

№19 1973. 5. 6 発行

館園紹介№17 「ひだ福地自然館」

- ・民具，糺摺白の変遷
奥美濃郷土館長 武藤 隆一
- ・岐阜県の社会教育と博物館 現状から将

来構想へ 編集部

- ・県内ニュース 東南アジアの昆虫展へど
ろぞ，染付・銅板磁器展へどうぞ，青木
允夫氏学芸員に，野島甲冑美術館開館，
飛驒民俗考古館開館
- ・事務局日より 会費値上げのお願い，こ
の会員証を示した人には。

№20 1973. 7. 1 発行

館園紹介№18 「炉畑縄文遺跡公園」

- ・炉畑遺跡公園づくりに望むこと
岐阜県博物館協会理事 稲羽中教諭・
学芸員 小野木三郎
- ・棚橋源太郎先生を思い出しながら
岐阜県教育委員会教育長 横山 勉
- ・県内ニュース 日本自動車館オープン，
竹類見本園改修完成，岐阜県郷土資料研
究懇話会々員募集中，水郷資料館の建設
具体化，恵那峡郷土植物園クワ入れ式，
加藤陶芸陳列館無料公開さる，岐阜県博
物館の起工式近し
- ・事務局日より 東海博連絡協議会総会に
多数参加を。

№21 1973. 9. 1 発行

館園紹介№19 「可児郷土歴史館」

- ・町年寄日記について 高山市立郷土館
- ・昭和48年度東海地区博物館連絡協議会
総会報告 事務局 松本 秀夫
- ・博物館職員講習会に参加して
県教委博物館開設準備室 野村 豊
- ・岐阜県下学芸員名簿 11名記載
- ・全日本博物館学会創立
- ・才21回全国博物館大会に参加を
- ・「歴史と博物館」創刊
- ・県内ニュース 池村氏の活躍TVで放映
さる，ひだ自然館益々充実
- ・事務局より 会費の納入を，吉田事務局
長再度訪ソ中，県博資料収集に協力を。

№22 1973. 11. 10 発行

館園紹介№20 「明善寺郷土館」

- ・岩村町郷土館生い立ちの記
岩村町郷土館長・教育長 田中健太郎
- ・トンボのはなし
岐阜市立梅林中学校 柴田佳章
- ・学芸員資格認定試験の思い出
稲羽中学校教諭・学芸員 小野木三郎
- ・学芸員の試験に多数参加を
- ・県内ニュース 板家の里・飛驒風物館オープン

№23・24 1974. 1. 15 発行

館園紹介№21 「関ヶ原町立郷土館」

- ・史話伝説の山国に生きる地方集古館
飛驒集古館長 土田吉左衛門
- ・美濃の山茶碗
小泉小学校教諭 田口昭二
- ・地方にとって博物館大会は何であるか
日博協評議員・岐博協顧問
広瀬 鎮
- ・全国博物館大会第3分科会の概要
岐阜県陶磁器陳列館長 古川庄作
- ・県内ニュース 春慶会館へどうぞ、浅見化石会館長 浅見薫氏 日本顕彰会より表彰
- ・岐阜県博物館展示基本計画（10ページ）

№25 1974. 5. 31 発行

館園紹介№22 「瑞浪市化石博物館」

- ・昭和49年度新役員決定
- ・事務局内藤記念くすり資料館へ移転
- ・吉田幸平理事長ロンドンで講演
- ・セミナーに多数参加を
- ・学芸員四人誕生
- ・学芸員資格取得講習に参加を
- ・岐阜県の博物館施設一覧表訂正・追加
- ・長倉三朗著日本の民俗21「岐阜」紹介
- ・博物館絵地図ができる
- ・岐阜県博物館に望むことなど
日本貝類学会々員 大垣内 宏

- ・県内ニュース「文教施設めぐり」で博物館を大きくとりあげる、治水記念館・水郷資料館企画さる、下呂に爬虫類の森できる、養老公園に森の博物館できるか、飛驒民俗資料館オープン、土岐市の博物館施設の動向、つむぎの館開館
- ・岐阜県博物館協会規約

№26・27 1974. 9. 30 発行

館園紹介№23 「関ヶ原ウォーランド」

- ・科学館はなぜ一歩進み得たのか(1)
モンキーセンター学芸部長 広瀬 鎮
- ・イコム会議の急進的方向性〔その1〕
岐博協理事長・文学博士 吉田幸平
- ・埋蔵文化財の取扱いに関する法的手続き
岐阜県教委文化課 徳松正廣
- ・保護鳥獣を博物館資料とする法的手続き
岐阜県環境保全課 鳥獣保護係
- ・県内ニュース 瑞浪市化石博物館が博物館相当施設に指定さる、老田野鳥館高山にオープン、木曾古文書館可児町にオープン、岐阜県博物館準備室だより1号発刊

№28 1974. 11. 28 発行

館園紹介№24 「飛驒民俗村山岳資料館」

- ・科学館はなぜ一歩進み得たのか(2)
モンキーセンター学芸部長 広瀬 鎮
- ・イコム会議の急進的方向性〔その2〕
岐博協理事長・文学博士 吉田幸平
- ・地方の現実を離れた頭の大会では
岐阜陶磁器陳列館長 古川庄作
- ・博物館人の広場 研究者と公衆の交流をめぐして
瑞浪市化石博物館長 渡辺卓郎
- ・県内ニュース くすり資料館ガイドブック発刊、文献紹介「博物館と近代世界」、写真集乗鞍の雷鳥出版される。

№29 1975. 1. 28 発行

- ・新春特集「世界の博物館人，岐阜県が生んだ棚橋源太郎先生」
岐阜県博物館準備室 宮崎 惇
- ・棚橋源太郎先生略年譜
- ・棚橋源太郎先生著作目録
- ・科学館はなぜ一歩進みえたのか(3)
モンキーセンター学芸部長 広瀬 鎮
- ・博物館人の広場 ほとばしる情熱の人
吉田吉左衛門さん／
- ・社会教育機関としての博物館への期待(1)
博物館学専攻大学生 美濃羽 寿
- ・県内ニュース 瑞浪化石館登録博物館に，文献「性神の性的展示」，自然資料館計画立案中。

№30 1975. 5. 31 発行

- 館園紹介№25 「飛騨民族考古館」
- ・社会教育機関としての博物館への期待(2)
博物館学専攻大学生 美濃羽 寿
- ・古川氏ら四氏に表彰状
- ・田端計朶氏に感謝状
- ・オ一回棚橋記念賞「故名和正男氏」に教育賞
- ・事務局より 棚橋記念賞顕彰基金募集について，「岐阜県内博物館等施設要覧」企画
- ・岐博協棚橋記念賞顕彰規程
- ・図書案内 学芸員研究シリーズ(4)
- ・岐阜県博物館に棚橋源太郎先生顕彰展示を／
- ・岐博協認定「学芸技術員」資格付与規程
- ・県内ニュース 「各務原市の歴史」発刊さる，秋神森の仲間会員を募集，特別展「瑞浪化石のすべて」開催中，渡辺卓郎瑞浪市化石博物館長退職，国府町に郷土館・民俗館・郷土植物園，岐阜天文台オ6期天文教室の案内，アマゾンのチョウ展へどうぞ，県教委「文教施設めぐり」発刊。

№31 1975. 7. 26 発行

特集号・自然保護と博物館

館園紹介№26 「老田野鳥館」

- ・人間と自然の新しい歴史を求めて
自然保護資料室 小塩 武文
- ・生涯にわたる自然学習の場の拡充を
岐阜県博物館協会理事 小野木三郎
- ・地域社会に生きて働くために
大垣市児童文化センター
- ・博物館人の広場
老田野鳥館々長 老田正夫氏
- ・県内ニュース 高山に飛騨工匠館オープン，白山長滝神社宝物収蔵庫開館，関ヶ原に軍事資料館。

№32 1975. 9. 10 発行

館園紹介№27 「白川郷合掌村」

- ・名和秀雄著「昆虫いけどり作戦」紹介
モンキーセンター学芸部長 広瀬 鎮
- ・「学芸技術員講習会」に関心絶大
- ・愛博協研究会にも参加ください
- ・「学芸技術員講習会」に想う
岐博協副会長・岐阜城館長 郷 浩
- ・統計表にみる博物館職員 社会教育面での博物館の見直しを
- ・「岐阜県博物館要覧」改訂作業進行中
未提出アンケートは早急に返送を
- ・県内ニュース くすり資料館に新展示，付知峡に博物館計画，「岐阜県博物館開設準備概要」できる，金生山化石館を閉館させるな。

№33 1975. 12. 18 発行

館園紹介№28

「国府町立歴史民俗資料館」

- ・大昔の生物 — 化石の秘密に魅せられて
ひだ自然館設立の思い出
ひだ自然館々長 山腰 悟
- ・生きた博物館と学芸員
(2ページにわたり図解)
岐博協理事・学芸員 小野木三郎

- ・県内ニュース 「恵那地方の鉱物」出版される, 金生山化石館問題の動き, 「わが自然の仲間たち」出版される。

№34 1976. 3. 12 発行

館園紹介№29 「荘川の里」

- ・許されない研究部門の廃止・研究員の解雇死んでいくのかモンキーセンターヨ／岐阜の博物館 編集部
- ・梅棹忠夫著「民族学博物館」紹介
- ・県内ニュース 飛騨の文化財第7号出る, 岐阜県歴史資料館の建設スタート, タウン情報ぎふ2月号で博物館へどうぞの特集, 特別展廿原窯展開催中 岐阜県陶磁器陳列館で, 保古自然館5月にオープン
- ・事務局より 昭和50年度会費未納の方は至急納入を, 東海博連絡協議会岐阜で開催, 今秋日博協全国大会高山で開催予定
- ・図書紹介 明治神社誌料全三巻
- ・韓国美術五千年展へお出かけを

№35 1976. 6. 5 発行

館園紹介№30 「岐阜県博物館」

- ・岐阜県博物館協会規約改正
- ・昭和51・52年度新役員決定
- ・お砂糖をまぶした私の「解剖史」
くすり資料館学芸員 古田恵子

- ・県内ニュース 大橋氏ら三氏に表彰状贈らる, 必見の新展示二つ, 新入館園紹介学芸員四人誕生, 「岐阜県の博物館要覧」ついに発刊。

№36 1976. 8. 5 発行

館園紹介№31 「爬虫類の森」

- ・昭和51年度 第14回東海地区博物館連絡協議会総会報告
- ・熊沢五六氏ら三氏へ表彰状
- ・東海博総会に参加して 岐阜県博物館に望むことなど
名古屋市立科学館 三輪 克
- ・文化と博物館 — その軌道を探る
岐博協広報委員・学芸員 田中淑紀
- ・県内ニュース 岐博協吉田幸平氏哲学博士号を授与さる, 郷 浩氏日博協理事に決定, 熊谷記念館付知町にオープン, 飛騨自然科学天文センター開館, 石田豪澄氏「たぬき談議」出版, 金生山化石鑑定会8月に予定, 白川郷荻町を保存地区に, 県博物館特別展「ふるさとの文楽」公開。

- ・事務局より 高山市で第24回全国博物館大会開催。

以上

(岐博協広報委員会 柴田学芸員)

図書紹介 民話集発行二題

関市「下有知の民話」 池村兼武著

著者は、本機関紙№15で紹介した池村教育資料館々長の池村兼武氏。開発の美名の下に民話のふるさとが破壊されるのを憂い、在住される関市下有知地区の古い民話を集められたもの。「鳥帽子岩」、「ずっとん和尚」など、おもしろい話七つが収録されている。ふるさとを見直す資料としての貴重な小冊子といえよう。

明方村「奥美濃よもやま話」 金子貞二著

著者は、やはり本機関紙№16で紹介した明方村立博物館々長の金子貞二氏。同氏著で、すでに第三集まで出されており、今回が第四集。「国田新道」、「カリコ」など六十三話と方言抄が収録されている。村内をくま無く歩き回り、さまざまな話を取材してまとめられた、ふるさとの記録である。一部800円。

市立

高山市郷土館

〒506 高山市上一之町 75 番地
TEL <0577> 32-1205



郷土館玄関



円空作
不動明王像



古き歴史を伝える文書類

天領高山がわかる古文獻の宝庫!!

明治8年、飛騨の名工坂下甚吉が建てた土蔵造りの文庫倉を利用したもので、そのブラウンの柱や自壁と、来館する若人の明るい衣服とが織り成す色彩効果が、たいへんに美しく感じられた。一階展示室には、近世の高山庶民の生活文化の華ともいえる消防用具や多くの民族資料、等身大もある円空仏三体が陳列されている。さらに急な階段を登ると、二階には原古代の石器や土器等の考古遺物のほか、近世の木彫や漆器、波草焼などの工芸品が、歴史資料とあわせて所狭しと展示されている。

屋根裏に近い三階の部屋は、「飛騨の古文書の正倉院」と命名してもよいほどで、高山領民の生活を研究する上で見のがすことのできない約13万点にも及ぶ古文書類が、白いれんがを重ねるようにして、和暦ごと保存されている。

特に、この中の「町年寄日記」、「願書留」、「検地帳」、「宗門人別帳」、「香木園文庫」などは、他館には類を見ない貴重な学術資料である。現在、これらは一般に公開されていないが、大学生や教師らが絶えず研究に訪れるということである。

貴重な多くの資料を有する本館は、教育施設としての価値はあるものの、その展示方法や教育活動には、今後開発すべき点を感じられる。

中でも、目玉商品である古文獻は、早急に整理し、公開されることを切望する。

入館者の最近の年平均は、5～6万人とのことだが、いずれにしても、生涯教育の場として今後の発展が期待される博物館といえよう。

休館は日曜日、祝日、年末年始12/29～1/3

<文：田中学芸員 写真：柴田学芸員>

岐阜県博物館協会主要事業年表

岐阜県博物館協会機関紙「岐阜の博物館」や事務所に保管されている資料、吉田幸平氏の記録などをもとに、本協会発足以来の主要事業をピックアップしてみた。それらの中からは、発足当時の苦勞やら、次第に発展していく岐博協の歩みを感じられ、まさに本協会の歴史を語る年表といふことができよう。年次を追って次に記す。

(期日) (場所等) (議事・事業の概要)

<昭和37～41年>

- 37.6.15 ユース
ホテル ・岐阜県博物館協会設立準備会発会式開催。
- 38.10.18 ユース
ホテル ・公市立博物館、類似施設館長連絡協議会開催。
- 41.6.25 ユース
ホテル ・岐阜県博物館協会設立。
・最初の総会を開催、規約決定、役員選出。会長(岐阜市長)、副会長(名和正雄、高山市長)、理事長(郷浩)、事務局長(吉田幸平)。
・学芸員部会編制、メンバーは竹村信弘、柳瀬司、広瀬鎮、宮崎惇、吉田幸平の諸氏。

<昭和42年>

- 42.3.8 金華山
展望台 ・東海博物館協会総会の岐阜県当番について常任理事会で協議。高山にて高山市と岐阜県博物館協会の合同で催すことを決定。
- 42.3.14 金華山
展望台 ・東海博物館協会理事会開催、19名参加。会計報告、事業計画、各県の状況交換、日博協全国大会愛知県大会について協議。
- 42.5.15 市立
図書館 ・常任理事会で岐阜県博物

館協会要覧作成を計画。

- 42.8.4 金華山
展望台 ・東海博物館協会総会の期日、事業計画、予算調達、観光案内等について協議。
- 42.9.18 名和昆虫
博物館 ・岐博協要覧原案と印刷費捻出を常任理事会で検討。
・岐博協総会開催、東海博高山大会について協議。
- 42.10.13 高山市立
～14 公民館 ・東海博協総会開催、参加者42名の多数。会計報告、予算報告、議題討議、日博協への役員選出、情報交換など。白川郷合掌村にエクスカージョン。
- 42.10.15 名和昆虫
博物館 ・付知郷土館立案の件
岐博協要覧に国立・国定・県立公園と観光施設付加、要覧の費用捻出のための県対策、観光施設対策等について検討。
- 42.10.18 岐阜県庁 ・常任理事会、陳情に行く。
1. 岐博協条令の立案。
2. 県下博物館及び類似施設に対する博物館行政の空白について。
3. 県下文化財の流出について。
4. 博物館及び類似施設の学芸職の指導者講習会の開催。
5. 岐博協要覧の作成支援。
6. 新設の博物館及び類似施設。
- 42.11.1 名和昆虫
博物館 ・常任理事会にて岐博協総会について協議。

<昭和43・44年>

- 43.6.10 名和昆虫
博物館 ・公市立博物館及び類似施設

- 設館長連絡協議会開催。
- 43.10.15 岐阜県庁 ・名和正雄副会長、郷理事
長、吉田幸平事務局長補
助金について県へ陳情。
- 43.11.10 郡上八幡 ・岐阜県博物館協会総会、
宮崎惇編「岐阜県博物館
要覧(1968～1969)」発刊。
- 44.1.25 金華山
展望台 ・「岐阜県博物館要覧」発刊
を記念し宮崎惇氏に感謝
状贈呈さる。
- 44.5.22 モンキー
～23 センター ・東海博物館協会総会、名
和正男、竹村信弘、吉田
幸平の三氏参加。
- 44.7.2 岐阜県庁 ・岐阜県百年記念事業委員
会に岐阜県博物館建設構
想陳状。
- 44.7.26 岐阜県庁 ・副知事に県立総合博物館
建設を陳情。
- 44.8.6 岐阜県庁 ・博物館建設を陳情。
- 44.10.1 山口県
～4 ・第17回全国博物館大会、
名和正男・竹村信弘氏参加。
- 44.10.15 県下 ・名和副会長及び事務局、
県下施設の視察と民族資
料館指導。
- 44.11.23 下呂町 ・岐阜県博物館協会総会
- <昭和45年>
- 45.1.8 編集部 ・新学芸員小野木三郎氏に
機関紙発行を依頼。
・「岐阜の博物館創刊号」で
きる。県教育長、岐阜市
長などの賛辞を初頁にの
せ8頁豪華版。
- 45.3.8 編集部 ・「岐阜の博物館」№2」発行
- 45.5.8 編集部 ・「岐阜の博物館」№3」発行
- 45.5.19 神奈川県
～20 ・東海博物館協会総会に参
加。
- 45.8.21 編集部 ・「岐阜の博物館」№4・5]合併
号発行。“県総会博物館建
設に望む”の特集号とす
る。当協会の精神的支援
- の実態がよくわかる。
- 45.9.27 モンキー
センター ・岐博協と犬山モンキーセ
ンターとの合同ゼミ開催。
- 45.11.8 編集部 ・「岐阜の博物館」№6」発行
<昭和46年>
- 46.1.22 岐阜会館 ・県内文化財復元作品展の
打ち合わせ。
- 46.2.28 名和昆虫
博物館 ・学芸員セミナー、博物館
の建設について。
・「岐阜の博物館」№7」発行
- 46.5.30 名和昆虫
博物館 ・学芸員部会、当機関紙財
政難で対策を検討。取材
は寄付金をもらえる館に
限ると大綱を立てる。
- 46.6.28 編集部 ・「岐阜の博物館」№8」発行
- 46.7.4 名和昆虫
博物館 ・今後の岐博協活動につい
て、常任理事会で協議。
- 46.9.10 編集部 ・「岐阜の博物館」№9」発行
- 46.11.1 編集部 ・「岐阜の博物館」№10」発行
- 46.11.3 くすり
資料館 ・岐博協総会。岐博協要望
書作成、県立博物館構想
を提出。
- <昭和47年>
- 47.1.13 岐阜県庁 ・事務局補助金下附につい
て県関係当局に陳情。
- 47.1.15 編集部 ・「岐阜の博物館」№11」発行
- 47.3.25 事務局 ・名和協会副会長急逝、協
会葬とすることを決定。
- 47.3.27 名和昆虫
博物館 ・同氏の協会葬を行う。副
会長に郷浩氏、理事長



明方村 東海博協総会風景

- 兼事務局長に吉田幸平氏を新任。
- 47.4.2 明方村 ・東海博協総会々場を当村に決定。準備、計画等に事務局折衝。
- 47.4.8 編集部 ・「岐阜の博物館」12」発行
- 47.4.13 松尾文庫 ・文化団体会議事務長出席
- 47.4.25 編集部 ・「岐阜の博物館」13」発行
名和正男氏追悼特集号
- 47.7.12 編集部 ・「岐阜の博物館」14」発行
- 47.8.10 金華山展望台
レストラン
はる ・岐阜博協総会。副会長選出。
- 47.9.3 レストラン
はる ・第一回博物館学セミナー。
- 47.9.8 編集部 ・「岐阜の博物館」15」発行
- 47.9.10 明方村 ・東海博連絡協総会開催。
シンポジウム課題「現代の博物館の諸問題」。各県より58名の多数が参加。
- 47.10.11 くすり資料館
レストラン
はる ・第二回博物館学セミナー。
- 47.11.5 レストラン
はる ・第三回博物館学セミナー。
- 47.11.8 編集部 ・「岐阜の博物館」16」発行
- 47.11.12 郡上長滝 ・事務局、長滝白山、石徹白を探訪する。
- 47.11.26 郡上郡 ・事務局、郡上の各文化施設・社寺・史跡等を探訪。
- 47.12.3 レストラン
はる ・第四回博物館学セミナーと理事会開催。
- <昭和48年>
- 48.1.28 編集部 ・「岐阜の博物館」17」発行
- 48.2.4 モンキーセンター
センター ・第五回セミナー、岐博協とモンキー合同で開催。
- 48.2.11 事務局 ・事務局会議
- 48.3.18 編集部 ・「岐阜の博物館」18」発行
- 48.3.19 事務局 ・事務局会議にて、セミナーの計画検討。
- 48.4.1 飛驒の里 ・第六回博物館学セミナー開催。
- 48.4.7 個人宅 ・総会資料及び本年度事業計画。高山セミナーの反省をする。
- 48.4.15 個人宅 ・セミナー集編集を計画。

- 48.4.29 はる ・岐博協総会。郡上セミナーの内容を討議。
- 48.5.6 編集部 ・「岐阜の博物館」19」発行
- 48.5.13 郡上八幡 ・第七回博物館学セミナー。
- 48.6.10 レストラン
はる ・第八回博物館学セミナー。
- 48.7.1 編集部 ・「岐阜の博物館」20」発行
- 48.7.8 岩村町 ・第九回博物館学セミナー。
- 48.7.12 蒲郡
あゆち荘 ・東海博連絡協議会にて、岐博協より11名参加。
- 48.9.1 編集部 ・「岐阜の博物館」21」発行
- 48.9.2 レストラン
はる ・第十回博物館学セミナー。
- 48.10.21 赤坂センター
センター ・第十一回博物館学セミナー。
- 48.11.2 レストラン
はる ・第十二回博物館学セミナー。
- 48.11.10 編集部 ・「岐阜の博物館」22」発行
- <昭和49年>
- 49.1.15 編集部 ・「岐阜の博物館」23.24」発行
- 49.2.17 レストラン
はる ・館長会議及び役員会。県博の構想を県博準備室長より聞く。
- 49.2.25 レストラン
そごう ・セミナー集発刊、ポスター「博物館へどうぞ」、館園一覧表について。
- 49.3.3 レストラン
はる ・昭和49年度事業計画。実行予算作成について。
- 49.3.6 編集部 ・ポスター「博物館へどうぞ」完成。
- 49.4.11 個人宅 ・事務局会議。
- 49.4.29 はる ・同上
- 49.5.13 三田洞 ・岐博協総会。
- 49.5.26 くすり資料館
資料館 ・事務局くすり資料館へ移転。
- 49.5.31 編集部 ・「岐阜の博物館」25」発行
- 49.6.1 ・吉田理事長 ICOM コペンハーゲン大会に、国際博物館会議日本代表団長として参加。
- 49.6.30 岐阜公園 ・第十三回博物館学セミナー開催。
- 49.7.28 多治見市 ・第十四回博物館学セミナー開催。
- 49.9.30 編集部 ・「岐阜の博物館」26.27」

- 発行
- 49.11.28 編集部 ・「岐阜の博物館」28」発行
- <昭和50年>
- 50.1.28 編集部 ・「岐阜の博物館」29」発行
- 50.5.25 岐阜市 ・岐博協総会。昭和49年度
事業報告、決算書と本
年度予算書承認。個人表彰。
- 50.5.31 編集部 ・「岐阜の博物館」30」発行
- 50.6.17 箱根 ・東海博連絡協議会、岐博
～18 協会員多数参加。
- 50.7.26 編集部 ・「岐阜の博物館」31」発行
- 50.9.10 編集部 ・「岐阜の博物館」32」発行
- 50.9.27 くすり ・学芸技術員講習会開催。
～28 資料館 350名参加、認定書交付。
- 50.12.18 編集部 ・「岐阜の博物館」33」発行
- <昭和51年>
- 51.3.12 編集部 ・「岐阜の博物館」34」発行

- 51.3.25 編集部 ・「岐阜県の博物館要覧」発
刊。関係方面に送付。
- 51.5.9 岐阜市 岐博協総会。個人表彰。
医師会館
- 51.6.5 広報委員 ・「岐阜の博物館」35」発行
会 編集責任者 柴田学芸員。
- 51.6.8 県博物館 ・東海博連絡協議会総会開
～9 催、60余名の参加あり。
- 51.8.5 広報委員 ・「岐阜の博物館」36」発行
会
- 51.8.8 岐阜市 ・日博協高山大会打合わせ
- 51.8.27 広報委員 ・特集号発行について協議
会
- 51.10.10 広報委員 ・「岐阜の博物館」37」発行
会 ・「岐博協歩み」を特集。
- 51.10.18 高山市 ・才24回全国博物館大会、
19 高山市にて開催。全国よ
20 り多数の参加者あり。

(岐博協広報委員会 田中学芸員)

==== 図 書 紹 介 =====

■ 小野木三郎著 「歩いて眺めて考えて」

— 植物社会の一等王国(岐阜県)

郷土の自然理解の入門書



創刊以来、本紙の編集に携わってこられた小野木三郎氏が、高校時代からの山登りと、ご自身の植物調査による県内歩きの体験をふまえられ、自然とヒトとのかかわりを見つめられた思索の書で、自筆のイラストや写真がふんだんに使われており、とにかく楽しく読める郷土出版の好著である。

県内の自然破壊の一例をルポした第一部「どこかが狂っている」を導入とし、第二部「植物社会の一等王国」では、豊富な写真・資料等から、岐阜県こそは日本の植生の縮図であることを説き、あまりにも知らなすぎる私たちの郷土知識が反省させられる。第三部「ヒトリソカカのひとりごと」では、「ひとりひとりが自然を正しく知ることなくしては、自然は守れない」

「自然とのかかわりが豊かであってこそ、ヒトは心豊かに成長できる」という信念に貫かれたひとりごと集で、ユニークな発想の数々がうかがわれる。

博物館人や自然愛好家はもとより、何よりも

まず、日ごろ自然を忘れて生活しがちな、「自然に無関心」なる人々にこそ読まれるべきである。申し込みは 〒500 岐阜市柳ヶ瀬7。教育出版文化協会 TEL<0582> 63-8955へ。

B6判。P224。定価980円。

■ 全国350館 見どころ 徹底ガイド

父と子の 博物館

監修 樋口 秀雄
加藤 有次

序文より……

“今、市民は、市民自身の学習権を主張できる時代となり、博物館を通して貴重な文化財の鑑賞や文化遺産「もの」による文化の営みを、身近かにできるようになってきました。

けれども、わが国では博物館が一般になじまれているとは考えられません。本書の企画のスタートは、そうした事実をふまえて、「博物館はいったいどんなところなのだろうか」、それを知ってもらおうこと、これを念頭におきました。また、博物館こそ、対話の少ない父と子が、ともに学びともに楽しむのに格好の場といえましよう。”

以上でおわかりのように、この本は親や子を博物館に導くためのガイドブックです。全国を八つのブロックに分け、その地方の有名館園が

詳細に解説案内されています。

岐阜県関係では、県立博物館、高山屋台会館、名和昆虫博物館、飛騨民俗村、下呂温泉合掌村関ヶ原町郷土博物館など15の博物館が挙げられています。その館の特色や見どころを詳細に述べ、パパのメモなる欄には、博物館見学を充実させるための資料、友の会、入館料、食堂、参考書などが記されていて便利です。

また、巻末には博物館の上手な活用法が解説されていますが、これは見る側ばかりでなく、見せる側にも役立つ記述になっています。

とにかく、本書を手にして読むだけでも楽しいし、旅行の折に本書をかばんの中に忍ばせておけば、よい案内役となるでしょう。

(富士書店刊 定価1,500円)

==== 県内ニュース =====

岐阜レストホール スポーツ・パルコへ 感謝状贈呈

岐阜県博物館協会上松陽助会長より、岐阜レストホール スポーツ・パルコ社長野原守之氏ならびに同総支配人末松卓男氏に、感謝状が贈られました。

第14回 東海地区博物館連絡協議会を、6月8・9日と関市小屋名岐阜県立博物館で開催した折、事務局としては多くの会員の宿泊場所に困っておりましたが、スポーツ・パルコにお願ひしたところ、格安に宿泊を引き受けていただき、また、事前の打ち合わせや鶴飼見物への輸送などにも、たいへんご配慮をいただきました。

それを紹介するとともに、ここに重ねてお礼を申し上げる次第です。

歌舞伎博物館

日吉ハイランドにオープン

かねてより建設中であった美濃歌舞伎博物館「相生座」が、去る8月28日開館し、市川猿之助一座による歌舞伎「鯉つかみ」が披露されました。失なわれゆく郷土芸能、特に歌舞伎衣装を中心とした豊富な資料が、新たに移築復元された芝居小屋づくりの建物の中に展示されており、回り舞台もあるなど、上演できる博物館として今後の活動が期待されます。

早くも新種発見!

金生山の化石学術調査

大垣市赤坂町、金生山の化石問題についてはすでに本機関紙でも取り上げたが、去る8月21・22日に化石鑑定会が開かれました。その折、中沢京大教授らにより、学名もない新しい化石が確認されました。昭和初期の調査以来、はじめての学術調査ということで、その成果が期待されます。この調査が化石博物館建設の原動力になることを祈ります。

乞う、博物館人の声援を!

岐阜県博物館だより

第1号発刊

岐阜県博物館では、今夏7月15日に、博物館だより1号を発行しました。表紙は、皇太子同妃両殿下が参観されたときの写真と小幡忠良館長の挨拶で飾り、開館式、文楽の特別展、オツノジカの紹介、催しやお知らせが載せてあり、活動のようすがよくわかります。

しかし、県民はまだ十分に博物館に慣れていないので、今後は展示の見方や資料の利用の仕方などについての記事を載せ、館の活動のPRと県民の啓蒙に一そう努力されることを期待したい。

編集後記

★ 岐阜県地方は、9月には長良川の堤防が切れるなど、今世紀最悪といわれるほどの激しい水害に襲われました。岐博協会員の中にも、浸水を受けられた方が多いと聞いていますが、ここに衷心よりお見舞い申し上げます。貴重な資料や文献は大丈夫だったでしょうか。

一日も早く復旧され、ご活躍されることをお祈り致します。

★ 今回の大会を機会に、岐博協のこれまでの歩みをふり返り、それをまとめ、さらに新しい方向を見つけ出そうということで、本特集号を企画しました。

多くの方々から原稿をいただき、どうもありがとうございました。特に、日博協専務理事毛利正夫氏からは、中央から見られた岐阜県の特徴や、岐阜県博物館界の今後のあり方などについて、鋭い示唆、ご助言をいただきました。

全国からおい出の方々は、岐博協会長の挨拶にもありますように、岐阜県あるいは高山市を材料にして、大いに討議していただきたいものです。

★ 本協会副理事長の吉田幸平氏は、このたびの岐阜県知事訪中団の一員に選抜され中国に行かれることになりました。革命後の博物館を一つでも多く見て来られるということなので、また、本紙に寄稿されるのが楽しみです。

小生、機関紙編集に携わってから日も浅く不慣れですので、行き届かぬ点は、どうかお許し下さい。大会の成功を祈ります。

編集担当理事

学芸員 柴田佳章